

会員だより

カラオケの思い出

私は若いころから歌謡曲（特に演歌）が好きでした。昭和40年代ごろからカラオケが流行りだし、職場で歓迎会、送別会、研修会の後の宴会などで、必ずカラオケが始まりました。

いつも謹厳で怖い上司が、眼をつむり、首を振って思い入れたっぷりに「いいのちいれれない」と黄色い声を張り上げて歌われたのには驚きましたが、微笑ましいようなうれしい気がしました。私は声量はないし、好きな割には情緒たつぷりの歌い方が出来ず、友だちからは性格通り？真面目過ぎると言われ、我ながら下手だなと自覚はしていましたが、順番が来てどうしても歌わないという立場が持てないということもあり、歌わされていま



あるとき「グランドホテル」で上司の送別会があり、私の順番が来て、

美空ひばりの「ある女の詩」

を歌いました。するといつもになく、声は朗々と出るし声量もないのに細かいところまで声が伝わるような気がしました。そしてみんなに大うけしたので、私の一世一代の晴れ舞台でした。考えてみると大きなホテルのカラオケ設備がそれだけ性能が良かったのです。

その後、そんな幸運に恵

まれたことはありません。

リタイア後、毎年いろんな

グループと年一回の同窓

会にもカラオケで楽しんで

てきましたが、年齢とともに

に集まりもなくなり、歌を

歌うこともなくなりまし

た。10年以上も経って、カ

ラオケで歌う機会があり

ました。愕然としました。

全く声が出ないのです。そ

ういえば話す言葉も声は

かすれ声となり、いかに喉

を使っついていなかったか思

い知りました。おまけに耳

が悪いので音程が取れま

せん。ホームでもカラオケ

のレクがありますが、歌入

りの曲を流して、みんな

歌ったり、童謡などで楽し

むくらいです。なお不思議

なことがあります。今、私

の日常が演歌に乗っ取ら

れています。私の脳が私の

意志に関係なく間断なく

演歌を歌うのです。（食事や人と話したり、何かしてるときは歌いませぬ）声には出しませんが、気が付けば歌っています。続けて歌ってみると何の曲かわかるのです。寝るときも演歌をうたいながら眠りに入ります。脳の一部がどうにかなっているのでしょうか。

記：牧戸富美子



高槻市バス

終点さんぽに誘われて

広報高槻12月号の市バス終点さんぽのキャッチフレーズに興味をそそられた。12月7日、友人とまずは梶原東行きに乗ることにしたが、待ち合わせミスで予定のバスを逃してしまし、慌てて次のバスの成合行きで警手小前から歩き出して、逆コースをたどることにした。バスを降りて名神高速を左手に見ながら、東に向けて歩き出すと、10分くらいで警手の杜神社の前に来た。鳥居をくぐると夜啼き石という奇岩が安定よくドーンと構えている。その昔高槻城に移したところ、「安満へいの〜」と啼いたので、

もとの場所に戻したという伝説がある。



警手の杜神社
神楽殿の鹿の額絵

神楽殿には鹿が描かれて

た大きな額が掛かっている

が、この安満一帯は奈良

春日大社の荘園になって

いたそうで、奈良の鹿と縁

があるらしい。毎年5月

5日に行われる馬祭を令

和2年のニュースで聞か

なかつたのはやはりコロ

ナの影響か、令和3年に

は復活してほしいもの、コ

ロナの収束を願って二礼

二拍手一礼で参拝する。

次に訪れたのは檜尾川

が南下するあたりにある

日蓮宗の法照寺だった。

菩提寺だが何より毎年春場所の頃、JRから相撲部屋の幟が見える事で知られている見晴らしの良い所にある。境内の枯れ葉を掃除しておられた住職の奥様の人柄の良さにも魅かれて、夏には水鉢の蓮の花を見に来たくなった。旧西国街道沿いには日蓮宗のお寺が次々と続いている。15分もしないうちに

また日蓮宗の、昔梶原寺と

呼ばれていた田中寺（でん

ちゅうじ）の標識がみつ

つた。このお寺と畑山神社

が隣り合わせにあり、昔は

一体となっていた。



一乗寺
樹齢800年の
クスノキ

今回の終点手前にある

のはやはり日蓮宗の一乗

寺である。以前この会員便

り2019.4に樹齢800年の

クスノキの素晴らしさを

紹介したが、この日も青空

の下でその雄大さに感動

した。その上境内の西側に

黄金の大イチョウの木と

12月の寒桜を見ることが

出来、新しい発見であった

クスノキの大木の横から

山道をのぼり、枚方までの

高槻を一望してから、市バ

ス終点梶原東停留所にも

どり、当初の逆コースが功

を奏したさんぽは終わっ

た。天気良し、見晴し良し、

見所多し、運賃無料、出会

ったすべての人々また良

し。これからも名所と自然

と人との出会いなどをも

とめて、市バス終点を極め

よう。

記：写真：上村サト子



法照寺本堂

高槻城主の永井家の第一

明治新政府の神仏分離令により神道と仏教が分離されて、日本あちこちに共存している所はあるが、畑山神社のように社頭に鳥居と寺の山門が同時に見られるのはその証しであり、珍しいらしい。たまたま境内に普段着で出てこられた田中寺のお住職



畑山神社 鳥居の
向こうに寺の山門